

KANEKA

The Dreamology Company

— Make your dreams happen —

平成27年3月期
決算概要

2015年5月14日(木)

株式会社 **力ネカ**

目 次

- 業績概要 P. 3
- 四半期別 売上高・営業利益 P. 4
- セグメント別 売上高・営業利益 P. 5
- セグメント別 事業概況 P. 6
- 業績予想 P. 7
- トピックス P. 8

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

- 売上高は、欧米を中心に海外事業が拡大。5期連続の増収となり、過去最高を更新。
- 営業利益は、上半期の一時的な収益悪化の影響を受け、通期では前年並みにとどまったが、下半期は前年を上回る利益水準を達成。
- 経常利益は前年を若干下回ったが、当期純利益は特別利益の計上もあり、大幅増益。

(単位：億円)

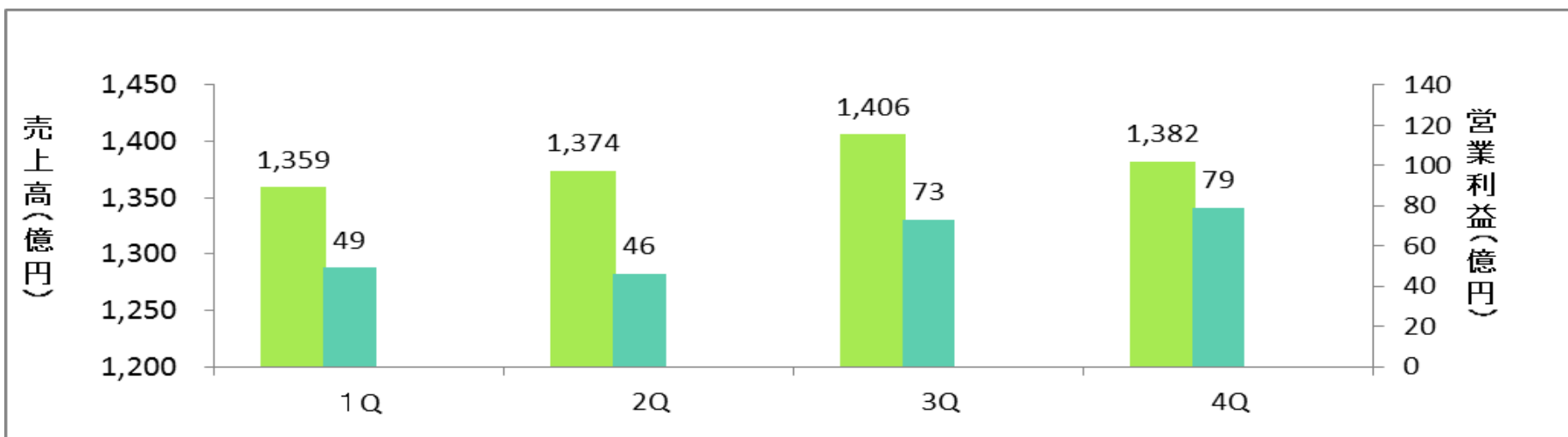
	H26年3月期	H27年3月期	増減	
売上高	5,248	5,522	274	5.2%
営業利益	248	246	△ 2	△0.8%
経常利益	260	248	△ 12	△4.7%
当期純利益	137	180	44	32.1%
1株当たり当期純利益	40.50円	53.52円		

四半期別 売上高・営業利益

- 取り組んできた販売拡大策やコストダウンなどの事業収益改善策の成果により、3Qの営業利益は1Q・2Qの一時的な減益から前年並みに回復。
- 4Qはさらに営業利益が拡大し、当初の通期業績目標（営業利益300億円）に見合った利益水準まで伸張し、成長軌道に回帰。

(単位：億円)

	H26年度 1Q	H26年度 2Q	H26年度 3Q	H26年度 4Q
売上高	1,359	1,374	1,406	1,382
営業利益	49	46	73	79



セグメント別 売上高・営業利益

- 化成品・機能性樹脂・ライフサイエンス・合成繊維は、主力製品を中心に海外事業が好調に推移し増収・増益。
- 発泡樹脂製品は、消費増税反動の影響を受け減収だが、収益の改善が進み増益。
- 食品は、原料価格上昇の影響を強く受け、増収ながら減益。
- エレクトロニクスは、新工場の生産体制の整備が遅れ減収・減益。

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高				営業利益			
	H26年3月期	H27年3月期	増減		H26年3月期	H27年3月期	増減	
化成品	107,352	110,715	3,363	3.1%	2,582	2,927	344	13.4%
機能性樹脂	86,289	95,387	9,098	10.5%	9,268	11,293	2,024	21.8%
発泡樹脂製品	66,482	65,759	△723	△1.1%	4,250	4,430	180	4.2%
食品	134,253	139,729	5,476	4.1%	5,026	1,807	△3,219	△64.0%
ライフサイエンス	47,423	53,399	5,975	12.6%	7,780	9,342	1,561	20.1%
エレクトロニクス	44,381	43,061	△1,319	△3.0%	938	△954	△1,892	—
合成繊維、その他	38,602	44,135	5,533	14.3%	8,462	12,130	3,668	43.4%
調整額	—	—	—	—	△13,487	△16,341	△2,854	—
計	524,785	552,189	27,403	5.2%	24,821	24,635	△186	△0.8%

セグメント別 事業概況

(単位：百万円)

		H26年3月期	H27年3月期	
化成系	売上高	107,352	110,715	<ul style="list-style-type: none"> 塩化ビニール樹脂は、国内・海外ともに販売が低調に推移。原料価格上昇の影響も受けた。但し、3Q以降は原油・ナフサ価格の下落により収益は改善。 塩ビ系特殊樹脂は、国内販売が堅調に推移。米国市場での販売も好調で、販売数量は過去最高となった。 か性ソーダは国内需要が低迷する中でも販売数量が増加。
	営業利益	2,582	2,927	
機能性樹脂	売上高	86,289	95,387	<ul style="list-style-type: none"> モディファイヤーは、国内・海外全地域で販売が増加し、新製品の市場開発も進んだ。 変成シリコーンポリマーは、建築用途などで他素材からの置き換えが進み、海外市場を中心に販売が拡大。 機能性樹脂は、世界市場での販売拡大が続いており、日・米・マレーシアでの能力増強の設備投資を決定。
	営業利益	9,268	11,293	
発泡樹脂製品	売上高	66,482	65,759	<ul style="list-style-type: none"> 発泡スチレン樹脂・成型品と押出發泡ポリスチレンボードは、消費税率引上げ後の住宅関連需要の反動の影響で販売が低調に推移。但し、3Q以降は原料市況の下落及びコストダウン効果が寄与し収益は改善。 ビーズ発泡ポリオレフィン、海外市場での自動車分野を中心に販売数量が増加。
	営業利益	4,250	4,430	
食品	売上高	134,253	139,729	<ul style="list-style-type: none"> 食品は、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、食の多様化に対応すべく技術革新を進めた結果、ニーズを先取りした新製品の販売が拡大。 上半期については、油脂原料や乳原料などの原料価格上昇と、販売物流システムや販社体制の整備強化に伴う経費増の影響を強く受けた。しかし3Q以降は油脂原料市況が軟化しコスト構造が改善。
	営業利益	5,026	1,807	
ライフサイエンス	売上高	47,423	53,399	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器は、血液浄化システム、インターベンション事業ともに国内・海外向けの販売が堅調に推移。 医薬中間体は、販売数量が増加し、API（医薬品としての有効成分を有する原体）や、バイオ医薬分野も販売が拡大。 機能性食品素材は、サプリメント市場における還元型コエンザイムQ10のヘルスケア効果の認知が着実に進み、販売は堅調に推移。
	営業利益	7,780	9,342	
エレクトロニクス	売上高	44,381	43,061	<ul style="list-style-type: none"> 光学材料は、需要が堅調に推移し販売数量が増加。 超耐熱ポリイミドフィルムと超高熱伝導グラファイトシートは、上半期の生産体制整備の遅れにより、拡大する需要に十分応えられず。しかし3Q以降は新工場の生産体制を強化し、需要に応えるグローバル生産体制を構築。 太陽電池は消費税率引上げ後の住宅着工戸数の大幅な減少という環境の中で、技術革新による世界最高レベルの変換効率をもつ新製品の開発や、コストダウンなどの事業構造改革を進め採算が改善。住宅向けに美観と性能を併せ持つ極めてユニークな建材製品として市場認知が拡大。
	営業利益	938	△954	
合成繊維、その他	売上高	38,602	44,135	<ul style="list-style-type: none"> 合成繊維は、アフリカ市場での頭髮分野を主体に当社の高品質・ブランド力による拡販を更に強化。またコストダウンにも積極的に取り組み、円安も収益の大幅拡大に寄与。 マレーシアにおける新工場の建設は計画通りに進んでおり、本年秋に稼働の予定。
	営業利益	8,462	12,130	
調整額	営業利益	△13,487	△16,341	
合計	売上高	524,785	552,189	
	営業利益	24,821	24,635	

業績予想

- 当社グループは、R&D強化による新規事業の創出とグローバル化による事業拡大を加速させるとともに、既存事業においても新製品の上市やコストダウンによる市場環境に左右されない収益力の強化を進めます。
- 食品とエレクトロニクスで発生した一時的な減益要因は解消し、また海外で好調が続く事業の生産体制強化も順次進み、収益基盤は強化されています。加えて、住宅関連など国内需要の回復期待や、原油・ナフサ市況および為替相場の安定的推移もあり、下半期の業績回復をスタート台に、新年度は大幅な増収・増益を達成し、新たな成長ステージに入る見通しです。

(単位:億円)

	H27年3月期実績		H28年3月期見通し		前年比			
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	2Q累計増減		通期増減	
売上高	2,734	5,522	2,800	6,000	66	2.4%	478	8.7%
営業利益	95	246	170	360	75	79.3%	114	46.1%
経常利益	96	248	155	330	59	61.6%	82	33.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	54	180	95	200	41	74.7%	20	10.9%

【H28年3月期 前提条件】 為替レート：120円/米ドル、135円/ユーロ 国産ナフサ価格：50,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

トピックス

アジアでのさらなる事業展開を目指し、
マレーシアに総額約120億円の設備投資

設備投資
(機能性
樹脂)

変成シリコンポリマーの生産設備新設

生産能力: 年産9,000トン 稼働予定時期: 2017年初頭

モディファイヤーの生産設備増設

生産能力: 年産20,000トン増設 稼働予定時期: 2017年初頭
(カネカマレーシア合計: 年産50,000トン)

今回の設備投資により、アジア地域での機能性樹脂売上金額を100億円以上伸ばす計画です。



また、高い成長が期待できるアジアは当社事業拡大の重点地域であり、
今後はマレーシア以外にも積極的に投資していく予定です。

○本年1月にタイで工場用地を取得し、同市場での事業展開を加速

○インドネシアでの加工油脂製造工場の更なる業容拡大検討 など

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/150512>

トピックス

「カネカ ペプチド」でグローバルに肥料事業を展開

事業
展開

農作物など食料の増収効果が期待される、**業務用肥料「カネカ ペプチド」**の生産・販売を開始し、肥料事業に本格参入します。

「カネカ ペプチド」には、光合成を促進したり、光合成によってできた糖類を効率よく蓄積する効果があり、農作物の収穫量が最大4割程度増えることが期待されます。今後、日本・米国・中国・東南アジアなど、グローバルに事業を展開し、2020年に売上高100億円以上を目指します。

バイオテック社と、生分解性ポリマーの商品開発に関する包括契約を締結

ドイツのバイオテック社と**生分解性ポリマー「カネカ バイオポリマー アオニレックス」**の商品開発に関する包括契約を締結しました。

ヨーロッパでは、環境保護の観点から生ごみ処理用のコンポスト袋などで、非石油由来の生分解性樹脂の使用が拡大しています。製剤カプセル、紙コーティング材、包装材など、ヨーロッパをターゲットとした新たな商品の開発を加速します。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/150218>
<http://www.kaneka.co.jp/service/news/150217>

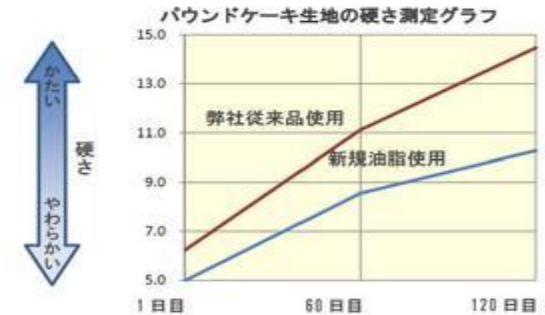
トピックス

半生菓子のソフト感、美味しさを持続する、菓子専用機能性油脂の販売を開始

パウンドケーキやバウムクーヘンのような、半生菓子の焼きたてのソフト感や美味しさを長期にわたって持続する、**世界初の機能性油脂「イニシャル」**の販売を2015年3月より開始しました。

新規酵素とカネカの油脂改質技術をコンバインすることで、時間の経過とともに水分を失い、硬くパサパサの食感に変化することを防ぎます。

新製品
(食品)



当社製品比較値

フライ油の吸収を抑える、ドーナツ専用生地改良剤の販売を開始

ドーナツ専用生地改良剤「QU-1000」の販売を、2015年4月よりグループ会社の新化食品(株)で開始しました。ドーナツを油で揚げる際に、生地表面から油が染み込み、べたつきが増すという課題を解決しました。

従来の製法と比較して油分の吸収を約20～30%軽減し、**油っぽくないドーナツ**を実現しました。

添加品は表面の油の膜が薄い



無添加

QU-1000添加

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/150213>
<http://www.kaneka.co.jp/service/news/150325>

KANUKA

The Dreamology Company

— Make your dreams happen —